

法拳手空・在自防攻

究研の八十

著和賢仁文摩 範師

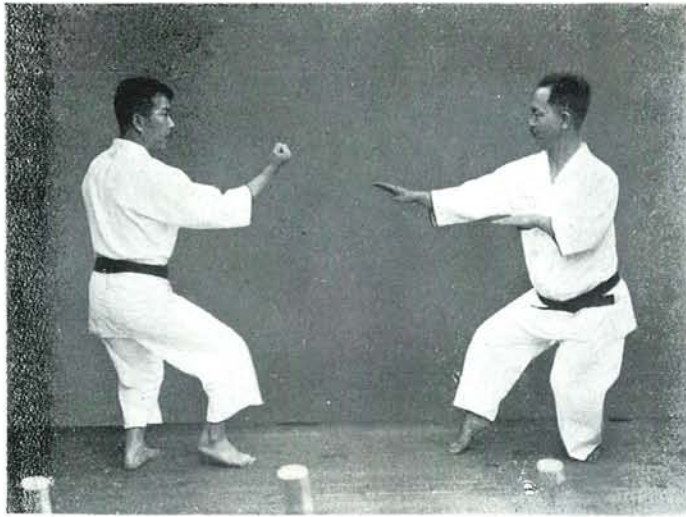
誌備武秘書錄附



行發・館武興・京東

空手拳法

師範 摩文仁賢和著



(方 ～ 構)



(方 け 受)



(勢姿のけ受ひ拂)



(へ 構の手鉤)

此の三つである。單式組手は相手が攻撃する場合、受けて當てる、と云ふ一撃の簡單な形で、複式は相手が攻撃する時、受けて攻める、敵も亦之れを受けて防ぐと云ふ形が之れである。眞劍組手は今までの組手稽古と異つて、實際に打ち込み、蹴ると云ふ眞劍試合が之れである。

C 受け方基本練習法

構へ方

双方約二尺位の距離に相向つて、共に左足を一步前に出して構へる。

甲は攻撃ばかり乙は受けばかりときめる。

受け方

初め甲が右拳を以て乙の水月部を突く、乙は右手を以て其の手を内横受けをなす。(圖解参照)

次に乙は其の手を右手を以て外横受けに變る。

第三に乙は左手を以て、敵の手を拂ひ受をなして、右拳を以て甲の水月に當てる。

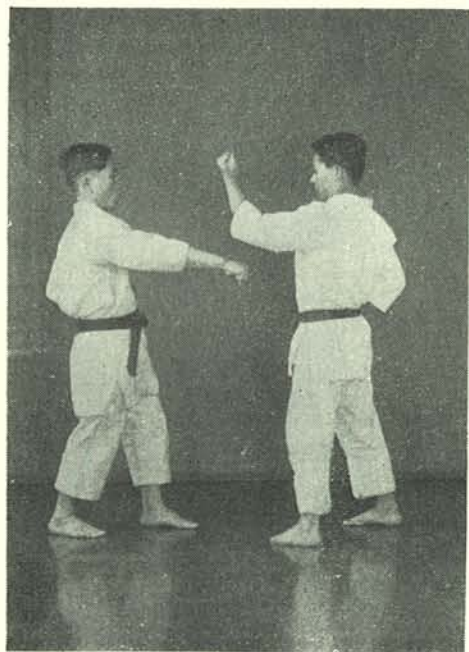
甲は乙が受けた通り、初め横内受をなし、第二に外横受、拂ひ受と云ふ様に、之れを双方交る交るに練習す。之れは受け方の練習ばかりではなく、各自の腕を強くする爲めで、丁度劍道の



内横受けの型

ヤマトーと同じで、充分効果がある。

(第廿七頁より第三十頁までの挿繪を参照して練習せられよ)



那利るすとんせけ受ひ拂

説明第二十六頁参照



型のけ受横外

説明第二十六頁参照

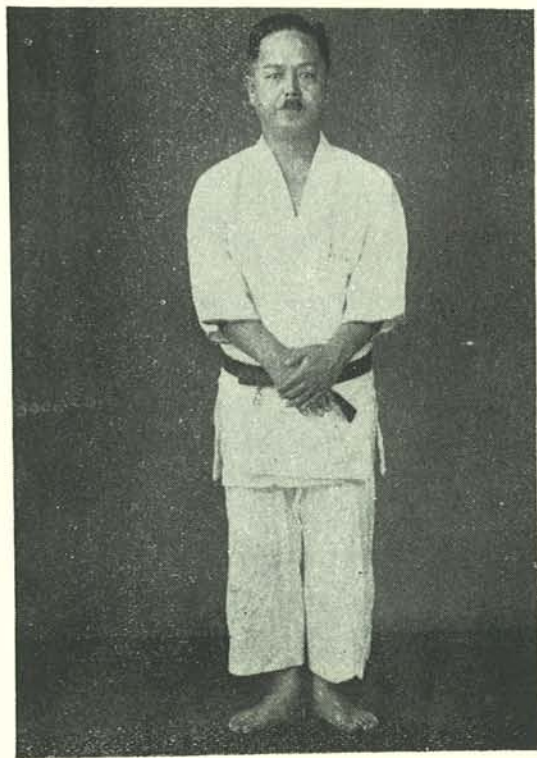
第三章 開手型・十八セーパの型



受ひ拂内

説明第二十六頁セーパ参照

十八の型第一圖



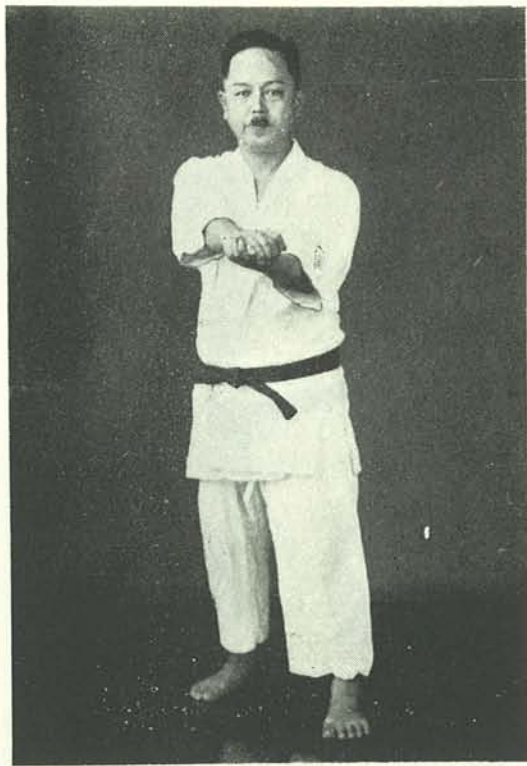
(一) 構へ方。足は結び立ちに立ち、左手は上に右手は下に重ねて、手掌を拳丸部に當て、顎を引き付けて、眼は眞直に前方を見、肩をさげて、丹田に氣を沈め、足は上下引合す様に踏み立つ。(型第一圖参照)(足の立ち方は拙著「護身術空手拳法」参照)

十八の型第二圖



(二) 左足を二歩後方に退きながら、體を右半身に開きつつ、左手は開いたまゝ下より上に向け圓形を畫きつつ水月の處に置き、同時に右手は開いたまゝ、右前に突き出す。其の時指先きを延ばし、甲は右、掌は左に向け、足は四肢に踏み立ち、背を眞直に立つ。(型第二圖)

十八の型第三圖



(三) 左足を一步前進しながら、左手を下に右手を上、合掌に握り合せて、脊を真直に立つ。(型第三圖)

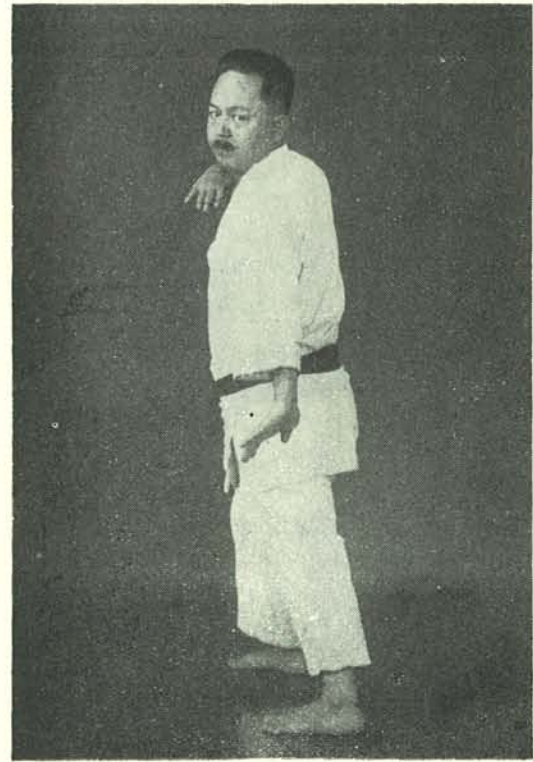
(四) 右足を更に一步進みながら、合掌に力を入れ、右甲を下に左甲を上にして、其のまま突き出す。(型第三圖の左右反蹠の型)

十八の型第四圖



(五) 足は其のまゝ、四股に立つと同時に、腰を落し、右臂は下より上にはねあげる様にして前に出し、左臂は腹部に落す氣持ちにて下にさげる。(型第四圖)

十八の型第五圖



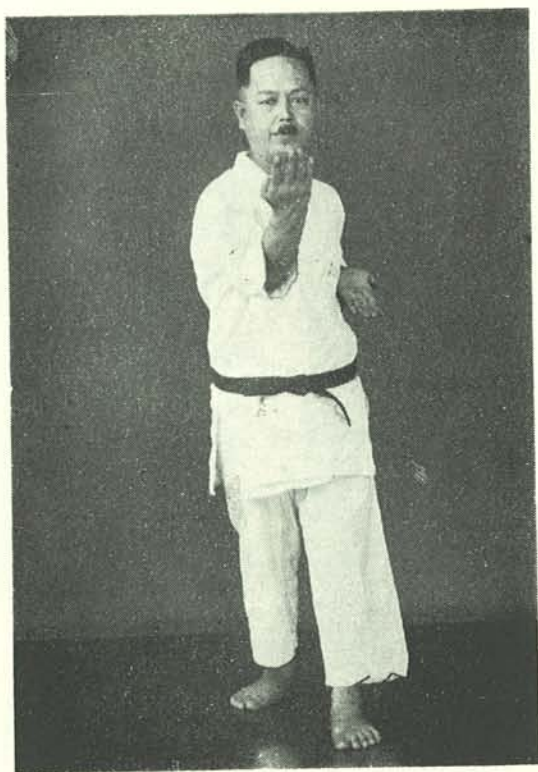
(六) 左足を一步前進しながら腰をひねり、斜に體を振り向くと同時に、右足を曲げ、左足を延し、左手は水月より足部に向けて手刀にて打ち落す氣持ちにて左足の處に下げ、右手は掌を下に向け開いたまま肘を肩と並行する様に前方に置き、其の時掌は水月部に體は右斜にして前方を見る。(型第五圖)

十八の型第六圖



(七) 姿勢は其のまま左手は開いたまま裏受けをなす。(型第六圖)

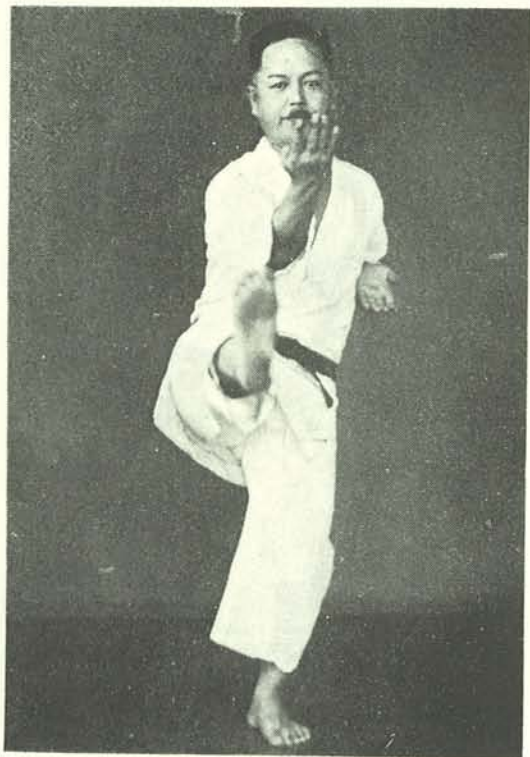
十八の型第七圖



(八) 同時に、腰を前方に向けると同時に、右手刀にて横受けをなし、左手は掌を前に向けて左腋下に置く。

(型第七圖)

十八の型第八圖



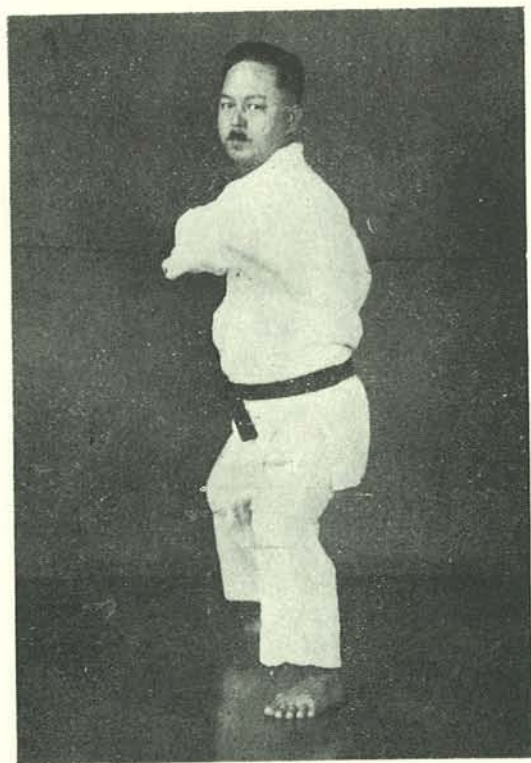
(九) 右足にて前方を蹴りあげてへ型第八圖参照) 元の位置に足を引き、同時に腰を落して四肢に立ち、左臂當てをなして、同時に其の拳にて裏打ちをなす。其時右拳は右腰の處に握つたまま構へる

(型第九圖)



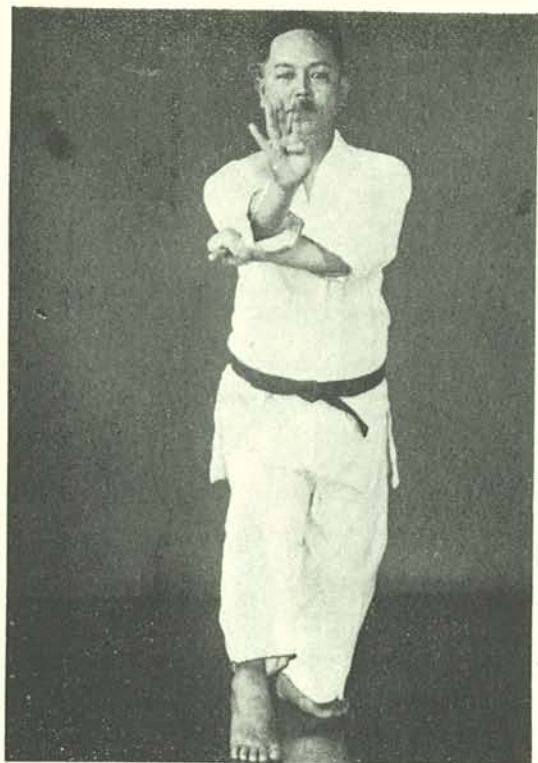
十八の型第十圖

(十) 其のまゝの位置にて、後に振りむくと同時に、右足を前に左足を後に、猫足立ちの構へに變じ、右拳は下より上に圓形を畫く様にして横受けをなし、其時左拳は右臂の處に置く、(型第十圖第十一圖)



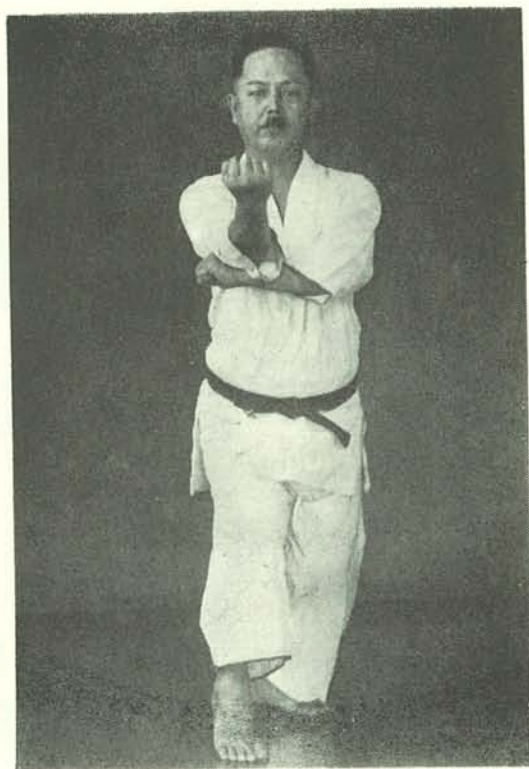
十八の型第九圖

説明は前頁參照



十八の型第十二圖

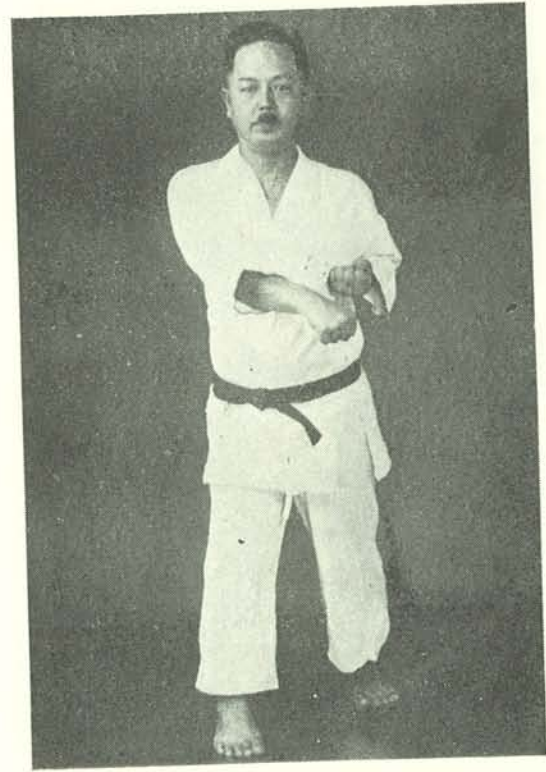
(十一) 其のままの姿勢 (即ち第十圖の如く後向きの姿勢) にて、右を開いて掌を前方に向く。(型第十二圖但し此圖は正面より見たるもの)



十八の型第十二圖

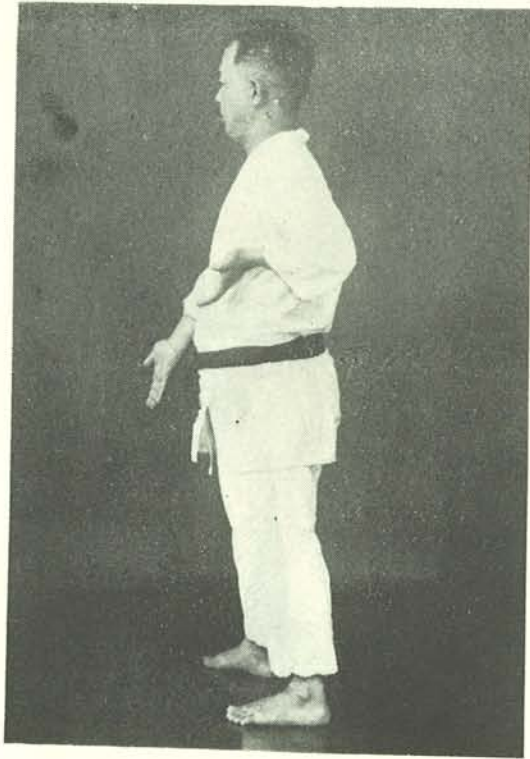
前頁の第十圖を正面より見たる圖。

十八の型第十三圖



(十二) 左足を半圓に
なる氣持にて前方へ一
歩進めると同時に、左
手は下より頭の上に高
く差し上げつゝ、下に
落して、左腰の處に握
つたまま置き、體は後
方に振り向くと共に腰
をひねる様に力を取り
右拳は其のまゝ水月部
より斜に突き出す氣持
ちにて、左側の處にお
し出す(型第十三圖)

十八の型第十四圖



(十三) 其のまま後方
に振り向くと同時に、
左手は開いたまま、顔
を中心として下より上
にあげて、左腋の處に
掌を前に向けて構へ
同時に右足は半圓を畫
きつつ、左側斜に一步
進み出し、右掌にて下
より上にはねあげる様
な姿勢を取る。(型第十
四圖)

十八の型第十五圖



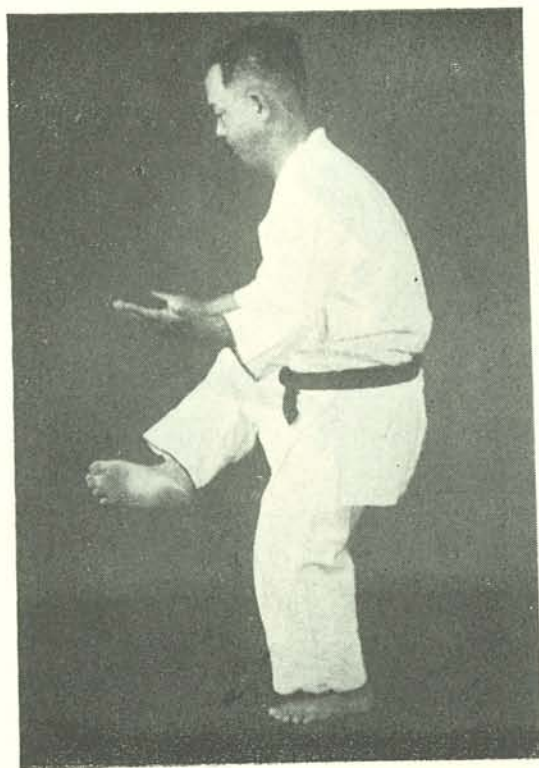
(十四) 左掌を下より上に圓形を畫く氣持にて、左足側の處に拂ひ受けをなし、其のままの姿勢にて前に寄り足にて一步進み、右手掌は水月部の前におし當てる。(型第十五圖)

十八の型第十六圖



(十五) 右足を一步進めて四肢に立ち、右は上に左は下にして(掌を向ひ合せて)圖の如く姿勢を取る。(型第十六圖)

十八の型第十七圖



(十六) 圖の如く兩手を其のまま(開いたまま)左右に開くと同時に右足は内側に向つて拂足をなし(型第十七圖)、同時に兩中高指拳にて、下に向けて突き落す。(型第十八圖)而して右足を一步後方に退き、左手にて拂ひ受けをなす。右拳は腰に足は四股に構へる。(型第十九圖)

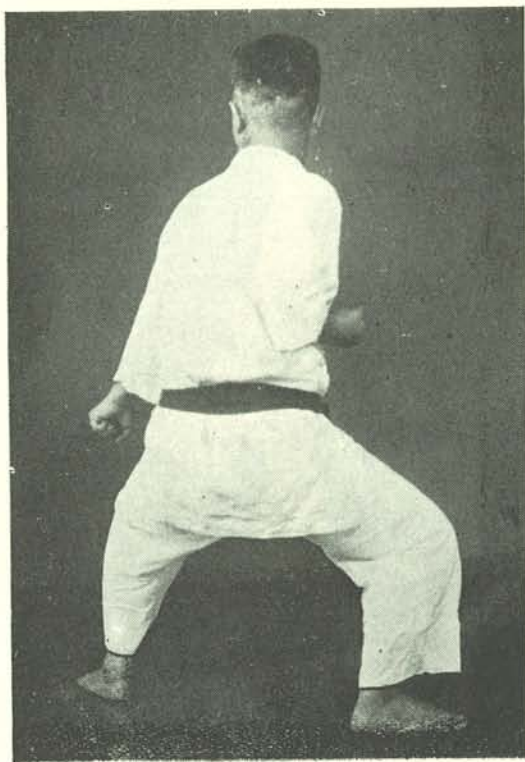
十八の型第十八圖



説明は前頁参照。



十八の型第十九圖



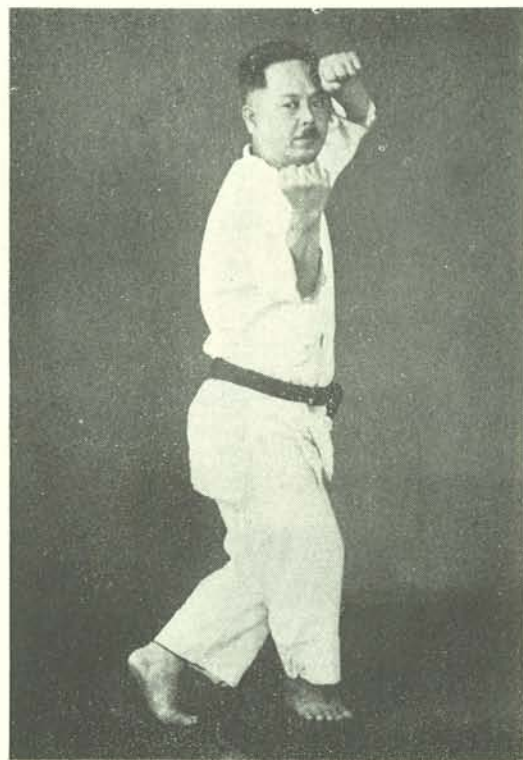
説明は第四十八頁参照。

(十七) 其のまま真直に立ち、右手掌にて上より下に拂ひ受けをなし、左手掌は開いたまま水月部に當て、一步寄り足をなす(第十四の反動)

(十八) 左足を一步進めて四股に立ち(第十五の動作と同じ)、左足にて拂ひ足をなし、兩手は左右に開いて、すぐ兩中高指拳にて下方に向けて突き、左足を後方に一步退くと同時に、右手にて拂ひ受けをなす。(第十六の動作参照)

(十九) 右足を前方に一步出すと同時に、後方に振りむき、猫足立の姿勢に取りて左手にて横受けをなし、右手は握つたまま額面に振り突きをなして構へる。其の時兩拳は互に指が向き合ふ様に構へる。

十八の型第二十圖



(二十) 右足を一步前進して、左足は外側に圖の如くして、右手にて横受けをなし、左拳は頭上に置いて構へる
(型第二十圖)

十八の型第二十一圖



(二十一) 其のままの位置にて、體を左側に振り向くと同時に、左手にて掛けて受けをなす氣持にて、甲を上に向き、左拳を下に向け、右手は前に少し延ばし、右手は甲を上に向き、右に向け、水月部の處に置いて構へる
(型第二十一圖)



十八の型第二十三圖

(二十三) 足部そくぶに向けて打ち落した左拳さげんにて敵の顔面かめんに向けて裏打ちうらうちをなす (型第二十三圖)



十八の型第二十二圖

(二十二) 腰こしを少しねじる氣持きもちにて、足をねじると同時に、左拳さげんにて圖の如く足部そくぶに向けて打ち落す (型第二十二圖)

十八の型第二十四圖



(二十四) 左拳にて裏打ちをなすと同時に、體を敵の正面に向け右手にて横受けをなし、(型第二十四圖) 右足にて前方を蹴りて(型第二十五圖) 元の位置に足を引き、腰を落して四股立に構へ、同時に左拳にて敵の腹部を突く(注意、其の時の拳は指を上甲を下に向けて突き、右手は開いたまま、掌を左側に

十八の型第二十五圖

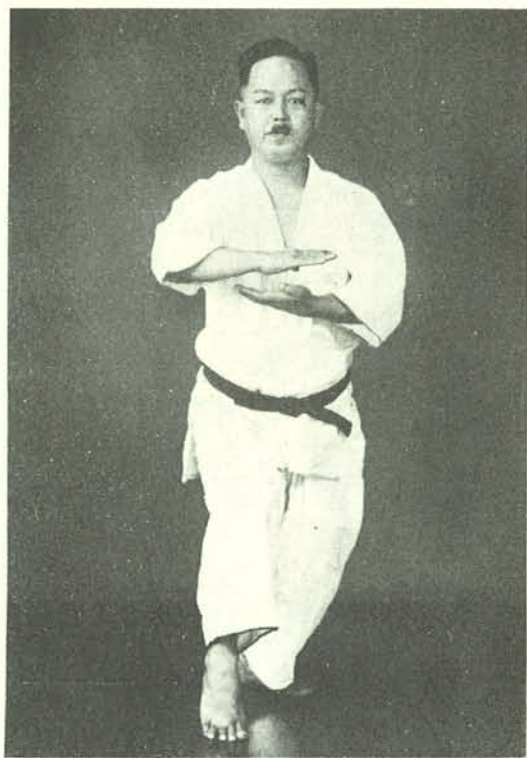


むけて水月部のところにおき構へる。

(二十五) 左足を其の場より少し前に出すと同時に、體を右側にむけ、右手にて前のように掛け手受けをなす。其の時左手は水月部の處に甲を上、掌を下にむけて構へる。

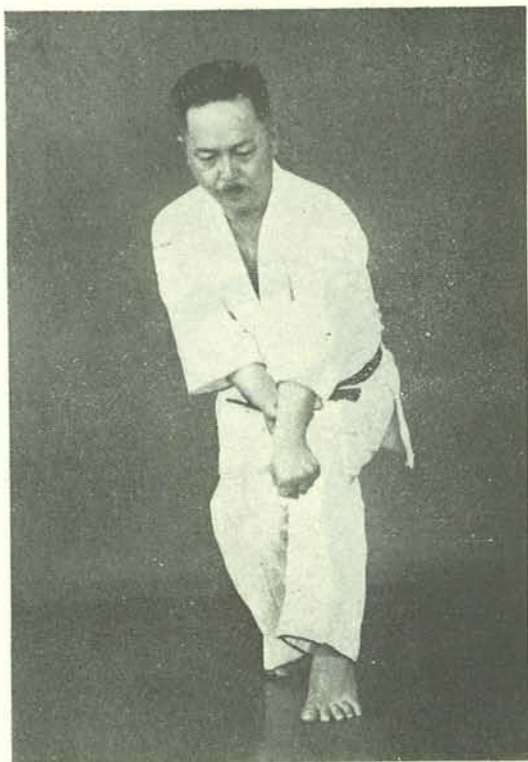
(二十六) 前の動作のように右拳にて、足部にむけて打ち落とし、同時に其の拳にて敵の顔面を裏打ちし、體を正面にむけると同時に、左拳にて横受けして、左足にて蹴り、其の足を元の處に引き、體を四股立に變じて、右拳にて敵の腹部を突く。其の時の構へは、右拳は指を上、甲を下にし、左手は掌を前にして、水月部にあてる。立ち方は四股立。

十八の型第二十六圖



(二十七) 左足を左側に一歩退くと同時に、體を猫足立ちに構へ、兩手は右手を上、左手を下に、圖の如く互に掌をむけあはして構へる(型第二十六圖)

十八の型第二十七圖



(二十八) 右足を一步
後方に引くと同時に、
両手は握つて、右は下
に、左は上になる様に
丁度ねじまはして引く
氣持にして變ず(型第
二十七圖)

十八の型第二十八圖



(二十九) 右の動作を
をはると同時に、左手
は開いて右拳軸にて左
足の前の處を打ち、左
足を引いて結び立ちの
姿勢になり、両手を合
せて初めの構へとなる
(型第二十八圖)

|| 十八の型終り ||



圖一 分解分

型第三、四圖の動作は
 兩手にて敵が我が右手首を取り
 たる場合はすし方(分解第一
 圖)

型第一圖は構へ方。

型第二圖の動作は、敵が我が水月部を、右拳を以て突き來る場合の受け方。

敵が右拳を以て、我が水月部を突いて來る時、我は左足を一步後方に退き、同時に我が左手にて敵の拳を上より下に向けて拂ひ落とし、同時に我が右拳にて反對に敵の水月を突く。



圖三第解分

型第五六七八九圖の説明
 敵が右足を以て我が腹部に蹴り
 あげ、更に右拳を以て攻撃する
 場合の受け方(分解第三圖)
 型第五圖の動作は、敵が我が腹
 部を蹴らんとする時、我は體を
 斜に向け、腰をねじ、同時に左
 手に圖の如く下段拂ひ受けをな
 す(型第五圖)
 敵が更に右拳を以て、我が水月
 部に突き來る時は、我は足を拂
 ふた左手を以て、敵の拳を裏受
 けし(型第六圖)、同時に我が右
 手刀を以て、敵の首筋を打ち込



圖二第解分

敵が兩手にて我が右手首を握り
 取りたる時、我が左手を右手と
 合し(型第三圖参照)、其のまま
 下より上に牛回を畫く如く敵の
 兩手(即ち握りしまま)を逆に
 押し返し、分解第二圖の如く左
 手刀を以て敵の面部を打ち込む
 若し敵が力が強くてはづれない
 場合には、一旦逆にはね返した
 のを、其のまま腰を低く落して
 型第四圖の如く右臂にて、敵の
 握りし兩手を下より上にはねあ
 げる。



圖五第解分

説明は前頁前照



圖四第解分

むべし（型第七圖）
 尙敵が左拳を以て、我に攻撃する場合は、我は右手刀を以て、敵の拳を横打ちし、同時に我が右足にて敵の腹部を蹴り込む（型第八圖、分解第四圖、同第五圖）と同時に敵の水月部に左肘當をなす（型第九圖）



圖七 第 解 分

敵に逆を取られた時の受け方。
 分解第七圖のように敵に我が右腕を逆に取りられた時、我は左手を以て敵の逆に取りし臂の處を押し、同時に、我が右手を引き右足にて敵の膝頭の處を蹴りおろし、同時に其の足を敵の前に踏み入れ、我が尻にて敵の腹部をはねあげると敵は投げ飛ばさる。



圖六 第 解 分

型第十、十一、十二、十三圖の說明。
 敵が右拳を以て突いて來る場合（分解第六圖）の逆の取り方。
 敵が右拳を以て、我が水月を以てかけて攻撃する時、我は左足を以て、一步後方に退くと同時に、我が右腕にて外横受けをなし（型第十、十一圖）、其の受けた右手にて敵の突いた手首を取る（型第十二圖）と同時に、我が左足を一步前に（敵の前）深く進み出ると同時に、我が左手にて敵の手を逆にする。（型第十三圖）



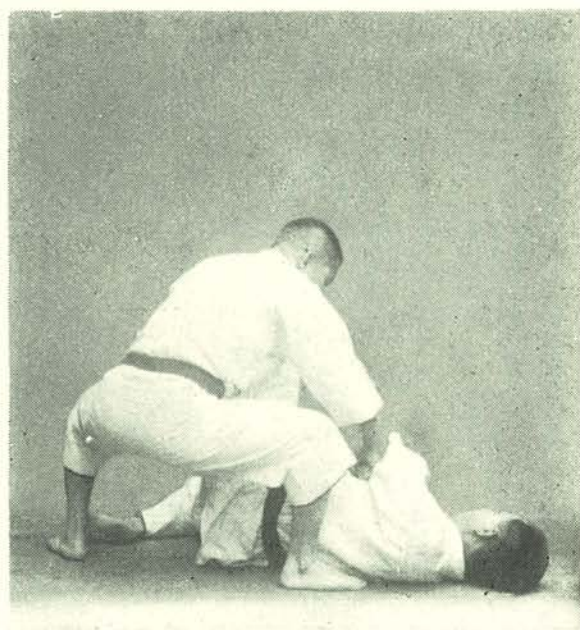
圖九第解分

型第十五、十六、十七、十八圖の說明。
 敵が左拳左足を以て同時に攻撃するのを如何に防ぐか。
 敵が左拳と左足を以て同時に攻撃する時、我は少し體を斜にして、左手にて敵の蹴り上げる足を拂ひ取り、我が右手にて敵の突いて來る手をすくい受け（型第十五圖、分解第九圖参照）同時に我が右足を一步敵の後方に踏み出し、敵の手を押へた右手を其の腋下より首の處に差し入れ我が右足にて敵の足を拂ふと



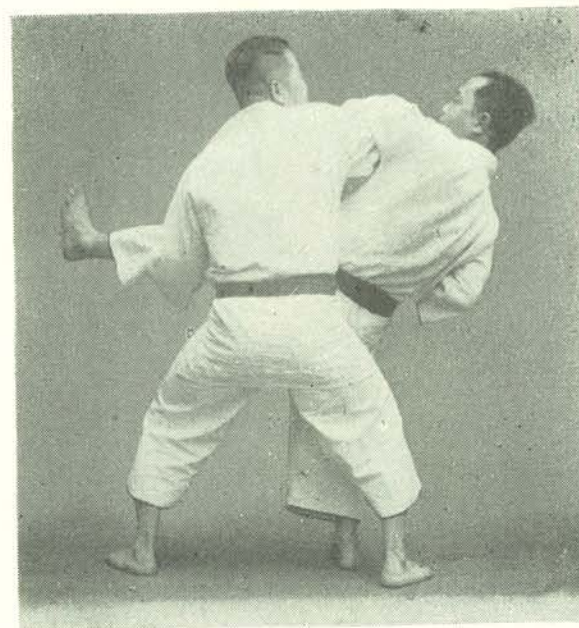
圖八第解分

型第十四圖の說明。
 若し逆に取りし手を前の如く受けようとした場合には如何にして防ぐか。
 逆に取りし敵の手を敵が前の方法で以て受け様とした時、我は敵の手首を握りし手をはなすと同時に、體を敵に向けて、右足を敵の股の處に入れ、同時に我が右手にて敵の金的を押し當て左手は敵の胸部を押す（型第十四圖、分解第八圖）



圖一十第解分

説明は前頁参照



圖十第解分

敵は倒れる（型第十六、十七圖分解第十圖）其時我は左右兩方の中高一本拳にて敵の金的と水月を同時に突き當てる（型第十八圖、分解第十一圖）



圖二十第解分

説明は前頁参照

型第二十圖の分解説明。

敵が右拳を以て、我に攻撃する場合、我は體を少し左側に變じ、同時に我が右手にて敵の突き来る腕の關節部の處を、下より上に横受けして敵を押へ、同時に左拳にて振り突きする。

型第二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七圖の分解説明。

敵が右足を以て我が腹部目にかけて蹴りついて來る時、我は型第二十二圖の姿勢の如く體を後方にねじつて、我が左拳にて敵の足（蹴りついて來る足）を打ち落し、同時に其の左拳にて敵の顔面を裏打ちし（型第二十三圖参照）。

再び敵が左拳にて我が水月部に攻撃する時は、我は右手にて（型第二十四圖）の如く横受けし、同時に我が右足にて敵の腹部を蹴る（型第二十五圖）

尙ほ引き続き敵が右拳にて我が顔面に攻撃する場合、我は右足を一步後方に退きて、四股立に變じ、我が左拳にて敵の腹部を當てる。

（型第二十七圖、分解第十二圖）



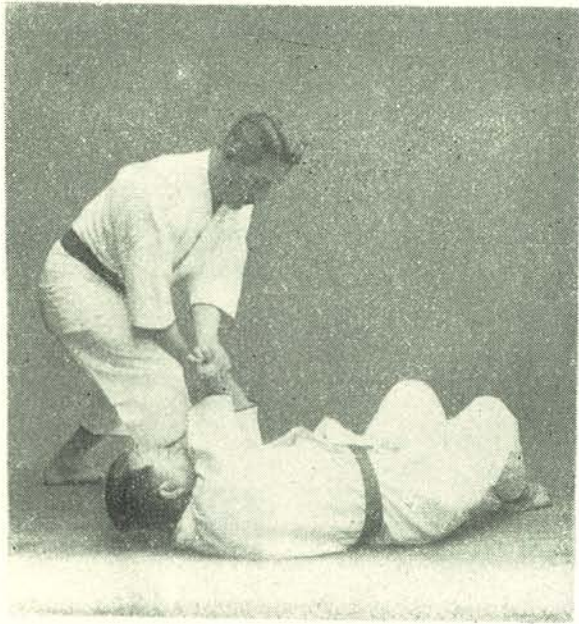
圖四十第解分

両手を、分解第十五圖の如く上より下に向けて逆に取り、我が足を後方に引きて倒す。倒れた敵の兩横面を、我が兩拳鍵にて打つ（分解第十六圖）。



圖三十第解分

敵が我が顔面めがけて突き来る場合の逆投げ。
敵が我が顔面めがけて突いて来る場合、我は右足を一步後に引くと同時に、我が右手にて敵の突いて来る手首を下より上に上段受けをなす（分解第十三圖）と同時に、其の手首（右手首）を握りて少し横に押し、敵の體を崩し、再び敵が左手を以て我が水月面に突いて来る時、我は左手にて下より上に抱ひ受けをなして、敵の手首を握り取る（分解第十四圖）而して其の取りし



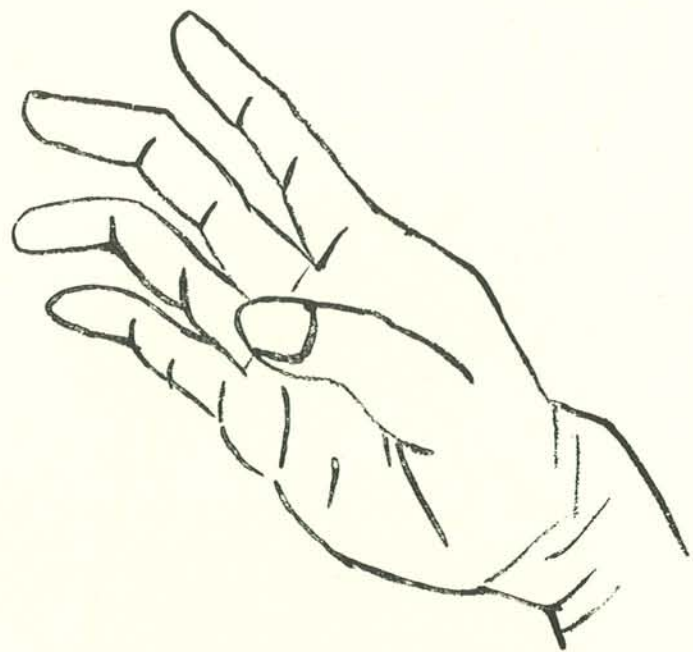
圖六十第解分

説明は第七十八、九頁参照

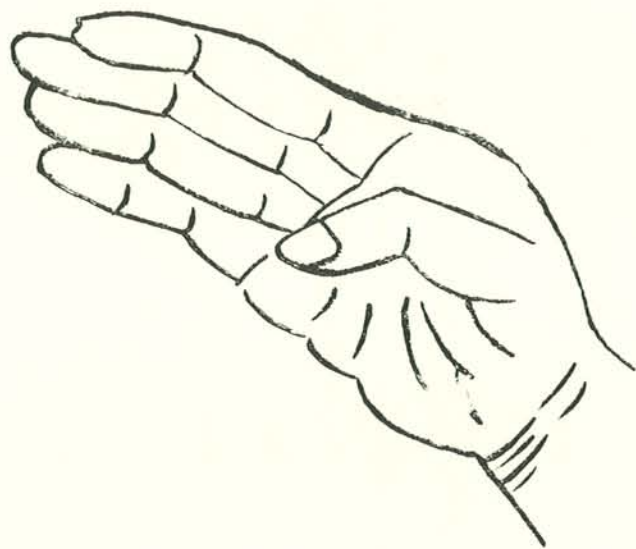


圖五十第解分

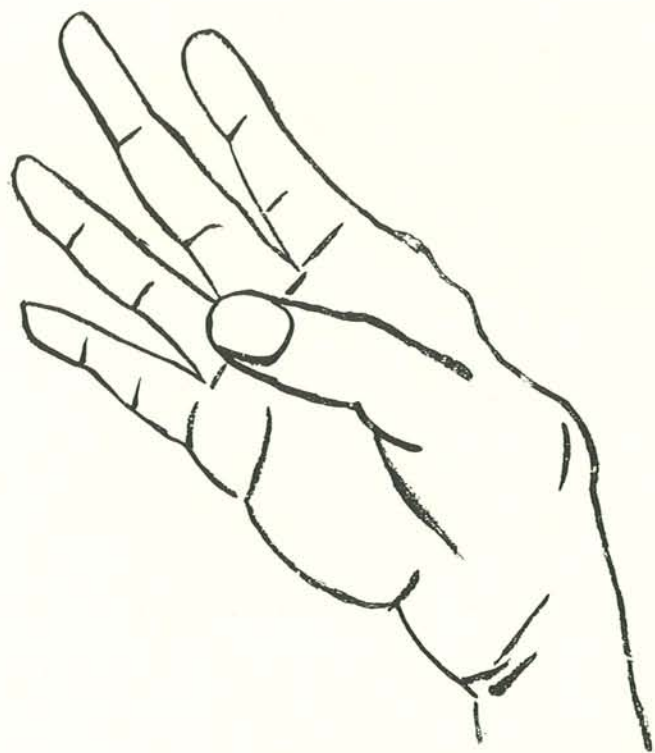
説明は前頁参照



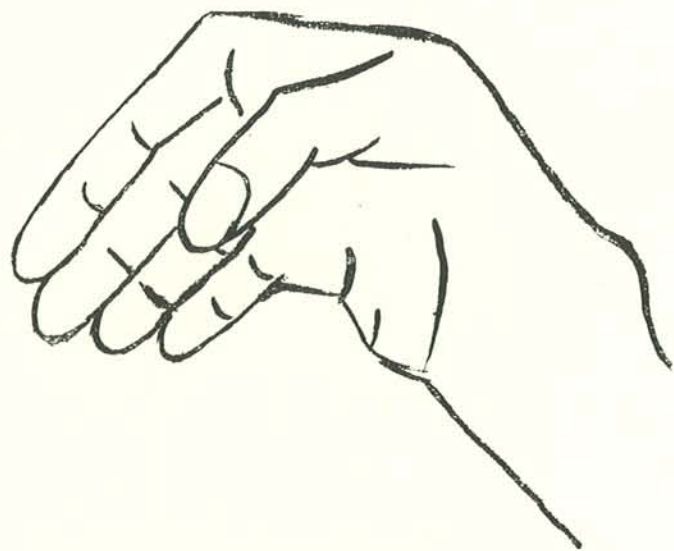
此手名瓜子打腮邊並全
 圈下用之若打速着藥治
 之不醫吐血三人一月而
 死矣



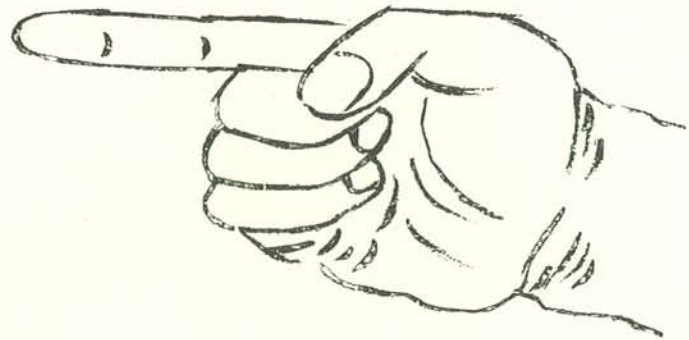
此手名鐵骨手打入人君
 須用此手或曰飯前打入
 君生吐血飯後打入人君
 魄散魂飛



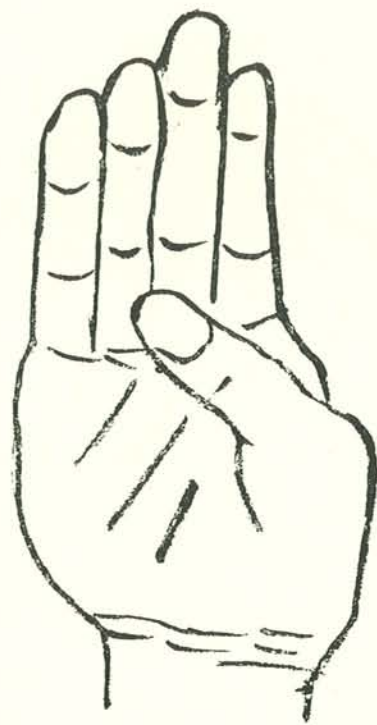
此手名鐵沙手用火煉
成打入人後鏡用之若
打入肉則欄速藥治之
醫則死



此手名曰撒攪手打入
人首血池用之若打其
人可用姜水救之千萬
不可到垂



此手名一路草技手打入
 人腑背骨之用若打着藥
 治之到久不醫半年必死



此手名曰向天刀手打入
 人骨節筋內用之打中不
 能言速着藥治之不治死







六



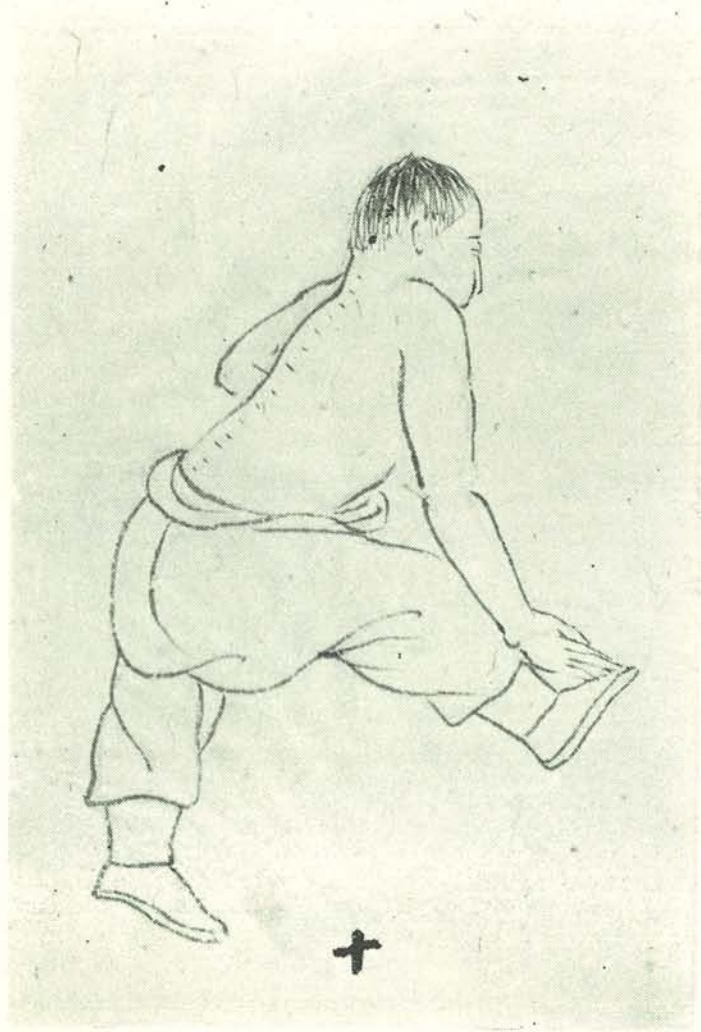
五



八



九





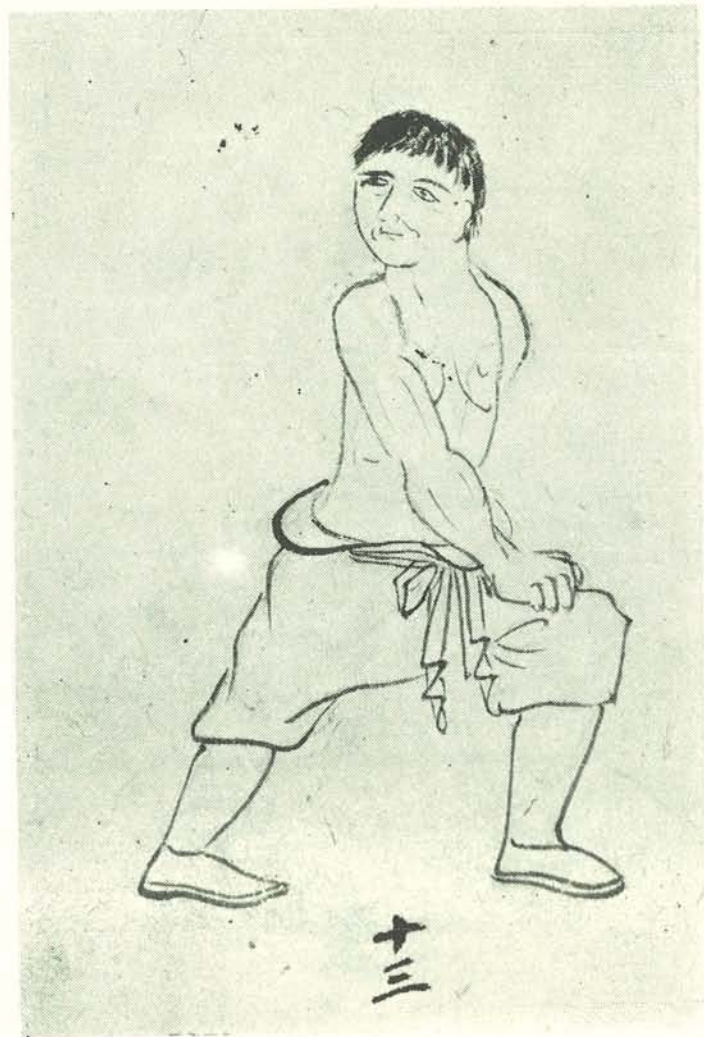
十二



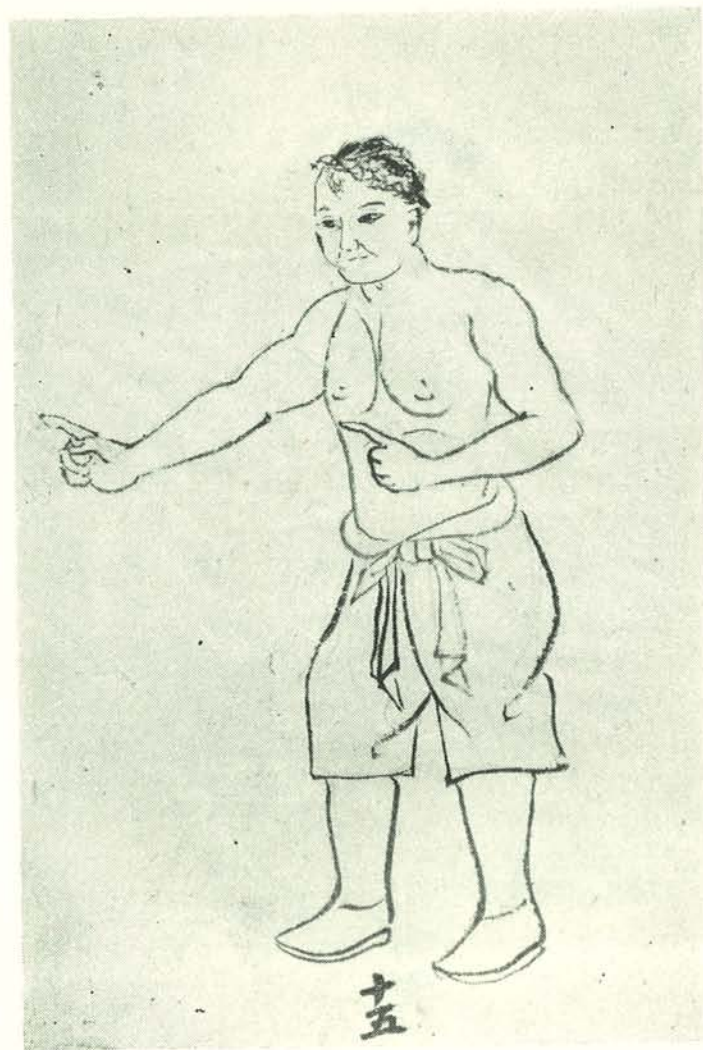
十一



十四



十三





六



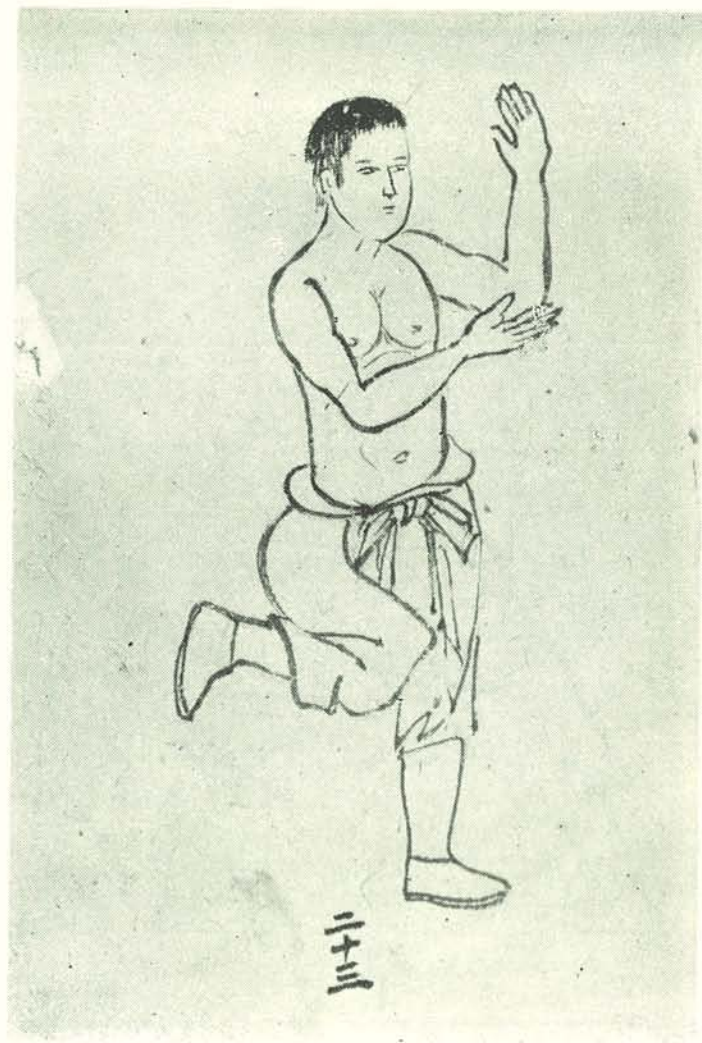
十七





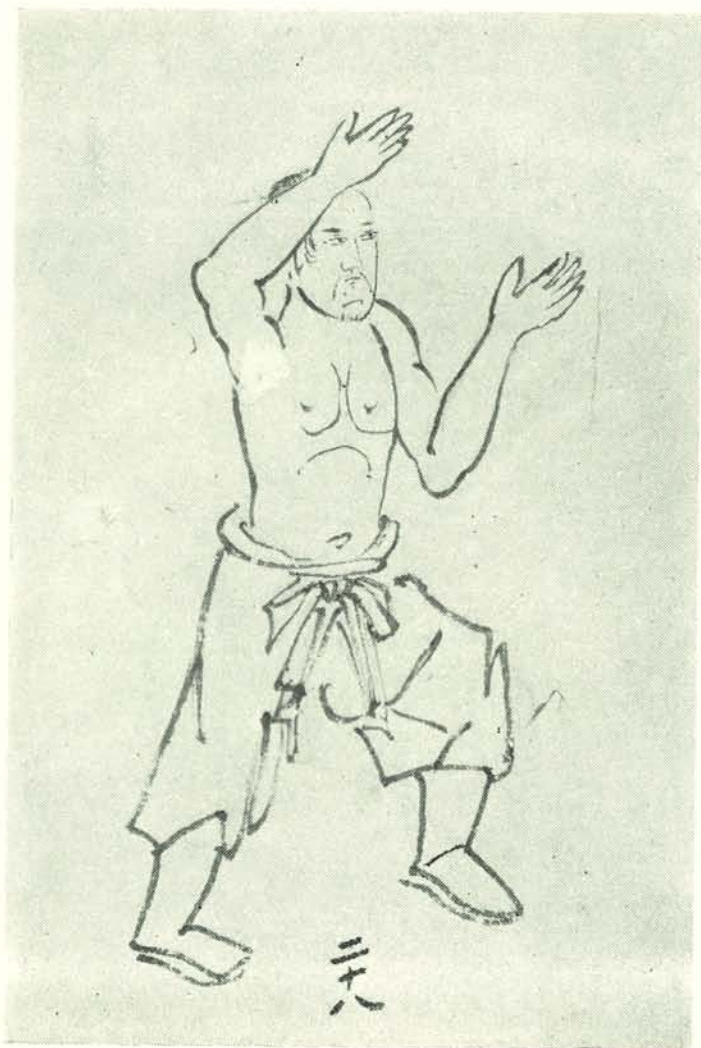


三番



三番

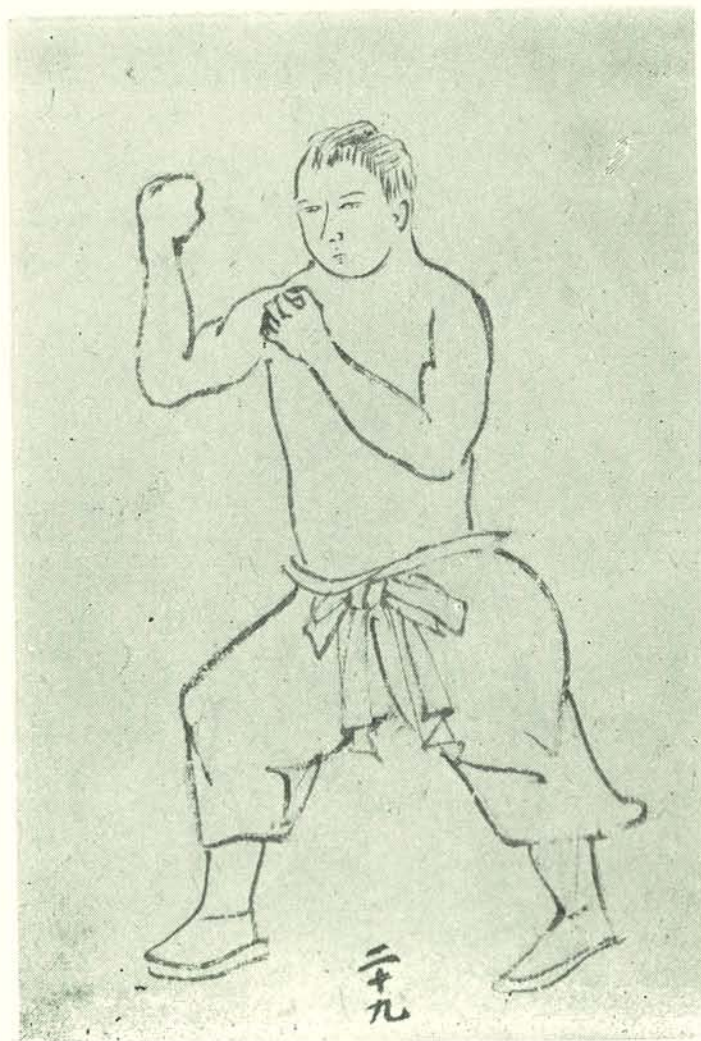


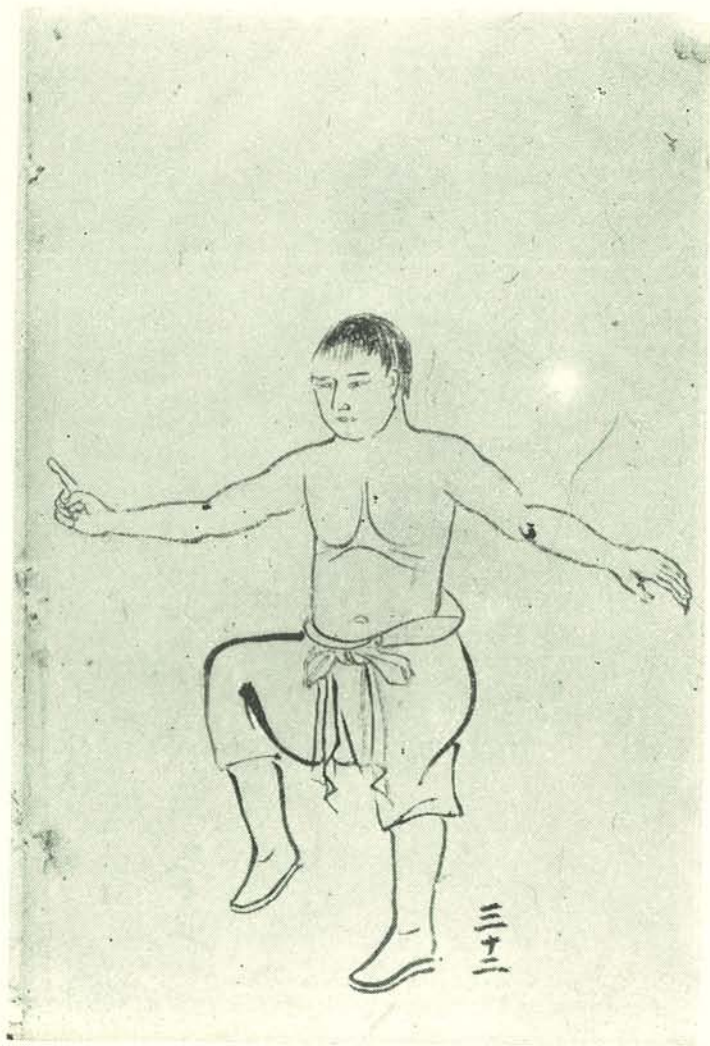


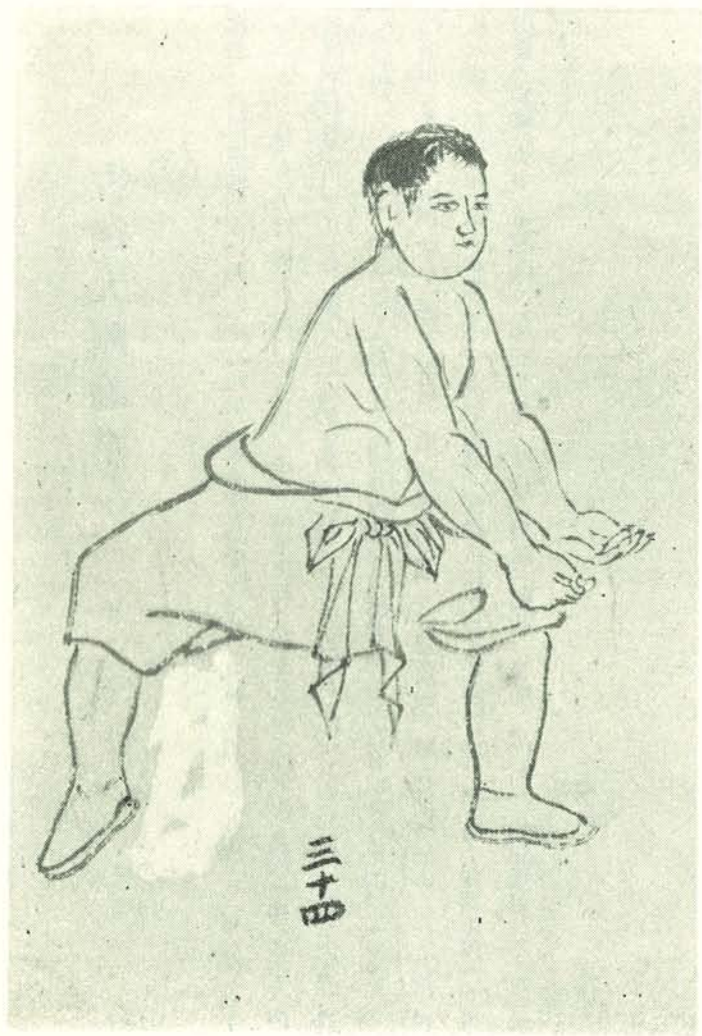
二六



二七七







血脈行腸腑一日死

子時



血脈行血盆十四日死

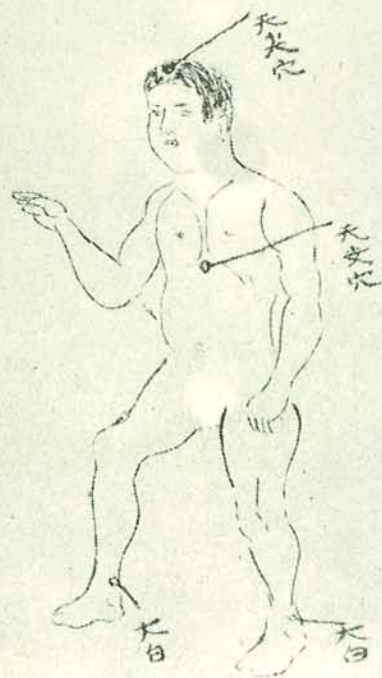
丑時





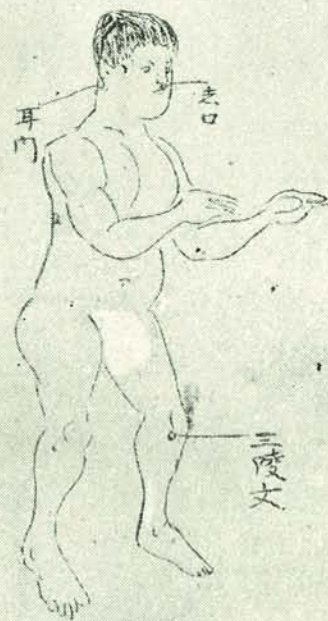
巳时

血脉左腸腑三年死



辰时

血脉交肝腑七步死



未叶

血脉在乳挽一年死



午叶

血脉在中心不可动



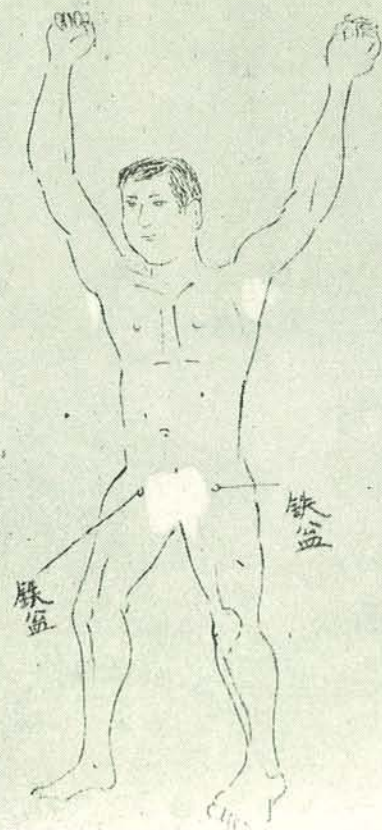
酉时

血脉在软骨尾二日死



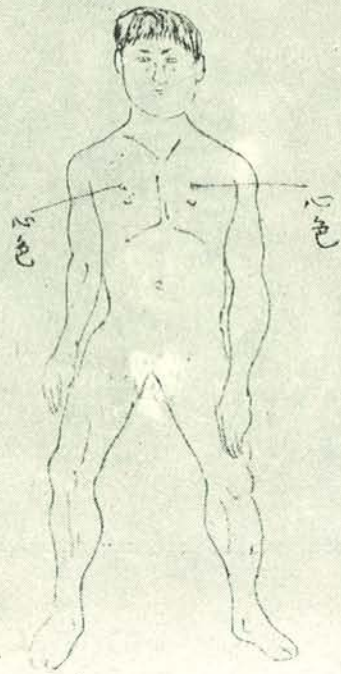
申时

血脉在二脉下十四日死



亥时

血脉在肝经
七日死



戌时

血脉在肠经
三日死





篇 手 組

午時用藥 蛇胆二分度香頭二卜香射子七分紅工絲二卜 酒三礪煎一礪服

未時用藥 社仲一卜乳香二卜丁香二卜肉桂二卜 沖酒空心服

申酉時用藥 麥二卜右秦心二分水礪半煎八分 空心服

戌亥時用藥 紅二卜藩山紅二卜紅土絲一卜万毒虎二卜 播末沖酒服下

擗後擗手勝



扭當脰手敗

丹鳳朝陽手敗



青龍出板手勝

虎爭食手敗



猴穿針手勝

出戰機手敗



仲猿背手勝

雙球命手勝



兩通身手敗

孩兒抱蓮手敗



將軍抱印手勝



穿心短手敗



拿拔剪手勝

鳳展翅平膝



龍吐珠手敗

雙鉞手敗

落地剪股
用假鉞勝



鎖喉寒陽手勝

扭髮撞腦手敗



鶴開羽翼手敗



鳳啄珠手勝

撓水求魚手敗

落地之剪勝



金蟬脫壳勝下



鯉魚落井敗上

旗鼓勢手勝



刀牌法手敗

羅漢開門敗



小鬼拔馬手勝

單刀赴會手勝



獨戰鞞門手敗

雨殘花手勝



雷打樹手敗

後亭採標手勝



後背伏虎手敗

擒青牛手化股前步腰



弄雙虎手硬

白猴折筭手敗



雙龍戲珠手勝

登山大虎敗



連地割葱身勝

雙合掌手散



獨臺戰中勝

醉羅漢勝



弄草枝手敗

羅漢播身勝



手足齊到敗

孩兒抱蓮手敗



短打穿心手敗之勝也

獨角牛手敗



存一朵手勝